

ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

6月になりました。札幌ではリラ冷えという表現を使うことがありますが、釧路ではこの時期の気候をどう表すのでしょうか。もし良ければ教えてください。

前回は骨粗鬆症の検査・診断についてお話ししましたが、今回は原因・治療についてです。多くの女性は50歳ぐらいまでは若い方と比べても骨が極端にもろいと言うことはないのですが、50歳を超えてから、右肩下がりにもろくなってきます。女性の50歳ぐらいに何かあるのかというと閉経です。厳密に言うと、閉経が骨粗鬆症を引き起こしているのではなく、女性ホルモンの減少が、閉経と骨粗鬆症の両方を引き起こしているのです。これは加齢に伴う自然な骨粗鬆症なので、原発性骨粗鬆症と言います。

自然な骨粗鬆症ではなく、他の病気や薬の影響でなる骨粗鬆症もあり、これは続発性（二次性）骨粗鬆症と言います。原因として多いのは内分泌疾患ですが、内分泌疾患と言っても、甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能亢進症、性腺機能低下症、クッシング症候群、アジソン病や糖尿病など数多くの疾患を含みます。胃切除や吸収不良症候群など栄養性・代謝性疾患が原因であったり、関節リウマチやサルコイドーシスなどの炎症性疾患、多発性骨髄腫や血友病などの血液疾患もありますし、薬の影響（副作用）で骨粗鬆症になることが有ります。

多くの場合は、原発性骨粗鬆症ですが、病的骨折で調べたら骨粗鬆症があり、その原因として甲状腺機能亢進症などが見つかったというのは、珍しいことではありません。さまざまな状態から甲状腺機能亢進症・バセドウ病とすでに診断されている方は少なくないと思います。そのような方は、早い時期に骨粗鬆症になることがありますので、早め早めに検査を受けて調べてもらうと良いでしょう。

治療についても書くつもりだったのですが、スペースが足りなくなったので、次回にさせていただきます。